

ほくは池田先生の話を聞いておど  
ろきました。1つ目は原爆の中心温  
度が100万度もあるということです。  
しかも人が生きてしまうのもこの  
授業を聞いておわかりました。2つ目は、  
原爆の衝撃波の速さが毎秒500mで音  
速の毎秒350mより速いということです。  
3つ目は原爆が落とされたところが真  
空に近い状態になるというところ  
です。真空に近い状態になったら  
ということも考えただけでもぞろぞ  
ろしました。池田先生の話を聞き思わ  
ず耳がさいで(もうような話もあり  
ましたが)この話を聞いて、とても  
経験になったと思いました。今度  
広島に行って原爆ドームやそれに関  
連する所に行ってみたいと思いま  
した。ありがとうございました。

白根小学校 6年 五十嵐脩介

原爆先生へ

私は、池田先生が話してくれるまで、

もっとかむ話だと思っていました。

でも、話を聞いているうちに、私の想像を  
こえた話で、びっくりしました。

あと話だけでなくスクリーンに映像などが  
うつされていて聞きやすかったです。

メモを取るときおまけに、ナガサキの話をしてく  
れたとき、もしかしたら、ナガサキの

原爆がおとされたとき雨がふってたり

おとくもってたら、おとされなかったと  
思うとすごくかないいぞ。

そしてゴルフボールくらいの、あんなに、

ちがりが、あったのにもっとあったら、

体中にちがりがあつたと思います。

だから原爆は、世にたいにだめだと思

うぞうと思いました。

白桜小学校 六年 池田 萌

先日は、授業をいただいたき、ありがとうござ  
いました。授業の内容は、自分が知らない事  
ばかりで、自分にとって良い経験でした。  
人のいた戸先に黒いシミがあったのを見て、  
広島にいた人達は、ふつうに暮らしてい  
たんだなと思しました。暴心土で  
は、人がどんだけ苦しんでいたの  
が、池田義三さんのお話を聞いた時、  
自分の目に、何人もの人が叫び、もが  
き、苦しみ、死んでゆく姿が、浮  
かんできて、どれだけ苦しんでいた  
かが分かるような気がしました。  
池田義三さんの助けようとしている  
のに、逆に苦しめてしまう悲しさを、  
感じられました。今回の授業を  
受けて、改めて原子爆弾のこわ  
さを感じました。又、このこわさを、自  
分達の子供や、次の世代に伝えたいと  
いけななと思しました。

白根6年、大内中

原爆先生のお父さんは広島  
方面に行き、トラックをまわった  
最中に何か光りとも見えた  
しかし熱におおわれ、しるもひ  
ど11月にあっても絶えずに11たこ  
とがすごしいと思はした。そして、  
死体の燃やす作業はともこの  
難事で最事たなと、心の中で  
思いこのような時代に生まれた  
人は、しるもかおいらたなとも  
思いました。しかし小倉に落とさ  
なかつたのはおいらたなと思はした  
なせなら小倉にはお父さんのお友を5  
が11ちるので、おとしほくなかつたので  
す。しかし、このことについてはアメリカ  
軍は運のつきであると思ひ次に長崎  
に落とさしても電が羽馬で、なかな  
かはれないで、おの土居所に帰るど  
した時に雲に煙があいたために  
アメリカ軍の飛行機から原爆を落と

アメリカ軍にようやく運がわって  
きましたが、長崎はとても最悪な  
目にあつたことでしょう。このような  
最悪な川にあっては島長崎の方  
にはごめいふくをわいのりしたします。  
原爆先生の言ひで、原爆についの  
すまがまなことがわかりました。原爆  
先生、ほんとうにありがとうごさ  
しました。

白桜小学校 6年 大来優心

私たち、白桜小学校の六年に特別授業をしていただいております。先生のおかげで広島に原子爆弾が投下してきたときの広島にいた人たちの気持ちがわかりました。ほかにも原子爆弾投下都市の条件や衝撃波の速さ、広島に投下された原爆の重さなどがわかりました。先生の話で一番しよげきてきたのは前半の部分です。とくに「私」が人を運ぶところがとてもいんげうにのこりました。ぼくは人をたくさん傷つけるので、原爆はないほうがいいと思いました。

白桜小 六年 岸 健人

先日は原子爆弾の授業 ありがとうございます。

私は、小さな頃から母から原子爆弾の恐ろしさや、8月6日と8月9日の、広島と長崎の悲劇のありさまを教えられていたので、戦争<sup>(戦争)</sup> = 恐ろしいもの、原子爆弾 = <sup>(原子)</sup> 恐ろしいものというイメージは、昔から頭の片隅にありました。高学年になってから、戦争に関する題材のおみものも読むようになり、「怖い」「怖い」「恐ろしい」など簡単な言葉で、さっと表わせないような感覚も知るようになりました。私は、実際に戦争を体験したことがないし、原子爆弾による被害も体験したことがないので、被害者の方が、経験した苦しさや痛みが、明確にはよくわかりません。被害者の方が、つらい思いをして過ごしたことを、様々なメディアを通して、理解はしていましたが、当時、数秒前までは生きていた人が無残にも一瞬で死んでしまったという、戦争の真実になるべく目をつぶってきましたけれど、先日の原子爆弾の授業で、日本が原子爆弾を落とされた国だということも改めてしみじみと感じました。皮膚がはがれおちること、熱線で、人が一瞬にして黒い汁に変わってしまうこと、日常的な、たまたま広島・長崎の街が、少しの間で焼け野原になってしまったこと、きいている内に、涙が目に留まりました。この話は多分、大人になっても忘れることが出来ないと思いました。私たちが大人になっても、次の世代の人に戦争の恐ろしさや、戦争の被害からの教訓

私は、原爆のこと、原爆による被害のこと  
など、ぜんぜんくわしく知らなかったけど、  
話を聞いて、原爆の怖さを知りました。

原爆は、太陽の表面温度より温度が  
高く原爆が落ちてしまった付近は  
すぐに、もえてしまうものは焼け、人間でも  
落ちた近くにいたら、死んでしまったり  
人間の姿ではなくなっていた、という  
話を聞いて、被害にあった人がかわい  
そうに思えました。今、生活している私  
たちは、1945年8月6日、9日の原爆のこと  
など、なにも気にせず生活しています。

なので、私は、ぜったいに1回、原爆ドーム  
、原爆資料館に行き見たいと思いま  
した。

なぜかというと、気にせず生活できる今  
はあわせたけど、自分が生まれる前に  
こんなことがあったんだ、ということをおぼ  
てはかけないと思いたからです。

白桜小学校

後閑 美希



先日は、原爆のことをいろいろと  
教えていただきありがとうございました。  
ました。きょうな話を聞くことがで  
きて、良かったです。原爆のことは調べ  
たことはありますが、実体験は聞い  
たことがありませんでした。原爆  
の被害を受けた人々が目の前に  
いるのに、助けることができな  
いというのは、たしかにもどかし  
いと思います。皮膚がたれ下が  
てしまっているのは聞いていただけ  
でこわくなったので、本当は助け  
るのがこわかったのじゃないのかと  
思いました。原爆を落とす候補の  
都市の京都は、こうなっていたというのに  
おどろきました。しかし、けっきょくは  
無差別なので原爆を落としたアメリカ  
はあまり、良い国ではないのかな？  
と思います。

白桜小学校 6年 櫻井 歌菜

池田先生へ

私は、池田先生から原爆の話を知って昔はすごく大変なことがあったんだなあと思いました。私は、池田先生の話を知っていて、ゾクゾクとするところもありました。でも、それは本当にあったことなので、しっかり聞きました。私は、池田先生の話を知っているとき、頭の中で戦争をしている時の事を想像したら、怖くなってしまいました。私は、戦争で亡くなってしまう人がすごくかわいそうだなあと思いました。あと、映像で池田さんが原爆の事を話しているとき、泣きそうになりました。私は、原爆の映像を観て、すごく大変だったんだなあと思いました。私は、原爆の話がすごく長かったため、おどろきました。私は、池田先生の話を知って、とても勉強になりました。先日は、ありがとうございました。

6年 白樺小学校 佐々木 恵理

この前は、戦争のお話をしてくださって  
ありがとうございました。

戦争のお話を聞いて、戦争がどれだけ  
お恐いものが、分かりました。戦争は、  
広島、小倉、長崎で起きていたことは  
知りませんでした。社会の授業で、戦争  
の事を勉強してきたけれど、まだまだ分か  
らない事がたくさんあったので池田先生が  
話してくださった事でたくさんを学ばせて  
いただきました。学ばせていただいた中で、  
もっともビックリした事は、原子爆弾の「リトル  
ボーイ」でした。「リトルボーイ」は、爆弾すると  
太陽よりも熱い炎が600m上空で燃えて  
いたことにビックリしました。600m上空に  
太陽があるだけでも、色々な物がとけて  
しまうのに、爆心直下でいっしょんにして、  
人や建物物がとけてしまうのは、恐ろしくて、  
とても小怖かったです。階段に残っていた、  
人のかけががあって、かわいそうとしか思えませ  
んでした。今は、戦争がなく平和なので幸せなん  
と思いました。

6年 鈴鹿作季

原爆くにマけたのいろいろたことを、本で  
知っていたけれど、体験者の方や  
その原爆を、つたえる人たちからきい  
てみると、本より、もっとくわしくてぐ  
んたの、せんが、投下されたあ  
とにどのようなかマどうをし  
ていったのかとか、原爆くした人  
は、じうなったのかとか、原爆  
くは、どのようなかうんどうにちっ  
ているのかとか、いろいろたことを  
ましえてもらってまらためて  
広島原爆く投下をすることを  
てきとうれしかつたです。  
又、産業じうれいかんとけら多の建物  
が、原爆くたん一で、あまなかが  
わってしまつたのでびんりし、  
けん爆くのとてマもないいり  
くもしおてとてよかつたで  
す。

白樹小6年須永 巨紀

先日は授業をしていただきありがとうございました。  
原爆先生の授業を受けて、改めて、  
原子爆弾、て怖いなと思いました。  
そして、他にもたくさん、原子爆弾の投下都市  
の候補があったことに、とてもおどろいて  
います。投下にも条件があることにも  
とてもおどろいています。  
何の罪もない広島の人々は、なぜ  
原子爆弾という化学兵器によって  
せくな。たのが、エノラ・ゲイに乗って、  
リトル・ボーイを落した人は、どんな気持  
だったのか。知りたい事はたくさんあります。  
でも、それは実際に体験した人しか  
わからないと思うので、その人の事を  
思うだけで、胸がいっぱいです。  
そして、この授業を通じて、おそろしさを  
実感し、そして、世界唯一の被爆国として、  
世界にほこれる国にしていきたいです。

白樺小 六年 高橋 りかこ



池田先生へ

私は池田先生のお話を聞いて、初めに  
「わい」と思いました。本物を見た事が  
無いのになぜか頭の中にげん場が  
うかんできました。

原爆のことはきかみかなくて、まったく  
知らなかつたけど、特別授業で、知る  
事ができてうれしかったです。

天こつで原爆をおとすかを決めるの  
にはビックリしました。3つの条件だけで  
原子爆弾単投下都市の条件が  
3つで決まるのにもおどろきました。  
40%も死亡するなんて、多すぎだ  
と思いました。

白桜小に来てくれた「おて ありがとう  
ございました。

白桜 6年 八田実優





先日のお話を聞いてみると、ヒンヒン  
原子爆弾のゆさかいつたゆつきて、想像  
したくないのに夏に入ってきて、ゆさ  
かヒンヒンまじまじしました。

爆弾が炸つても、ひかいは、すこいのに原子  
爆弾だと、ひかいは、しんでもないこと  
になるこしかわかりました。それたすかたし  
して、ひはくしくるしい思いを、人が  
たくさんいるとき、自の体がどろしました。  
そして、はした時の地上の温度が  
3000度とした時、想像もできずして  
した。自分が体験したことのない、うづうじや  
考えられない、そんな温度になつたら人間  
がいまていられるわけがないと思ひ  
ました。原子爆弾のひかいは、体験  
したてゆさかいつたゆつくる。  
そんな原子爆弾をなぜ、つてしまつたの  
か、同じ地球という土地に生きてるのに  
なぜ、ゆさかと人と人がこころあゆないと  
いけないのか、そこがぼくには、まったくわからぬ。

白桜小学校 6年 伴元介

ぼくは、歴史の主人公として原子はた  
だんは素晴らしい物だ"と思いましたが、  
だけど先生の話を聞いて原子はた  
んのおもしろさを新たに感じました。  
なぜ原子はた"んをおとさ来たの  
かぼくは先生の話をきいておもしろか  
りました。原子はた"んによって人の命が  
次々とうしなわれ"ていくその話をきいて  
ぞんきな気持ち" いっぱいした。  
ぼくたちは平成はうまでこうなんだ  
"と思ひます。こうしてつづに生きて  
こうな原子はた"んについて話をきけ  
てこうなるとぼくは思ひます。ぼくは  
なぜ"原子はた"んをかい"てき  
な来たのかきゆうにきかされておとされ  
たのはしょうがないと思ひます。けれど  
2回目は痛ひできたと思ひます。ぼくは  
話をきいておと"と考へて考へて"ます。  
白木 学 木 友 6年 平田一

私は、原爆先生の授業を聞いたあと  
すごくかなしくなりました。

広島に原爆が落とされたあとの人々  
の様子が、自分達の想像をこえてい  
たので、すごく印象に残りました。

他にも、原子爆弾投下都市の条件  
があることにびっくりしました。原爆先生  
の話をお家で、お母さんに伝えたら、お母さん  
も、条件のことで、すごくびっくりしてしま

した。他にも、ハッシュンにして、親子が  
消えてしまうということも、すごくびびり  
しました。私は、原爆資料館に行き

たいと思いました。もし、今東京に原子  
爆弾が投下したら、私たちは、一発で  
死んでしまうんだなと、かなしくなりました。

だけど、今回の授業を受けて、私は  
一生、原爆のことを忘れたいと思います。

いや、忘れません。そして、一生忘れない  
授業をして下さった、池田先生、ありが  
とうございました。

白木小学校6年 福田優希

ぼくは、原火暴をおそろしい物  
だと思、ていました。原火暴が火暴発  
した時の中心の温度が太陽の  
ひら面よりも熱いと聞いた時は、お  
どろきました。小倉は、すごく運が  
いいと思、ていました。本当は、小倉に落とす  
はずだったのに何回も失敗して天候  
がわるくなって中止になるのは、運が  
いいと思、ていました。

原火暴の被害を受けた人たちの  
話を聞いていてすごくおもしろ  
かったです。

ぼくは原火暴の話を聞いて  
原火暴は、もう作、てはいけな  
いと思、ていました。ぼくは、  
先生の話を聞いておもしろ  
く思、ていました。原火暴は  
おそろしいものだと  
わかりました。原火暴のお話を  
聞いておもしろかったです。

白樺小学校6-2 松原一真

昨日は、ありがとうございます。

私は、この話を聞かなくて後悔して話のど真ん中に耳をふさぎました。してしまいましたか、話を聞いていて、すごくかなしい思いをしました。

その他にも、プリントを使い話を聞いたりメモをしたりして、色々がんばるのこともよく知れて良かったです。

ばくだんのことや、がんばるをおとすときに3回もしっばりしたということなどが本当に神様は、いるんだな~と思いました。

一つのばくだんが川をうめるほど死者が出きぐらいのものすごく怖くもっていて、そのことか、どのくらいかなしいことかあらためて、思いくるしい思いをしました。

この話を他の学校の人達につたえていってくださり。

白桜小学校 6年 松本まみ

池田先生の話を書いて、気持ち  
がしても悪くなりました。そのため、  
軽度のしびれ気が生じました。また、  
敏和、問意識が遠のきました。しかし、  
そんな気持ちを悪くすることは伝  
へなければいけないと思っ  
ておまた、世界唯一原爆を落とされ  
た国として原爆の危険を世界に  
伝えなければいけないと思  
いおあしかし、原爆はなくな  
るどころか、むしろ破壊力が強い  
水素を使った水素爆弾も作られ  
てしまいました。あの天才科学  
者アインシュタインも「第三次世界大  
戦はどんな戦いになるかわからな  
いから第四次世界大戦なら分かる  
人の石を投げ合うだろう」と言っ  
ておあそのため、原爆を使うと人類  
の文明は、ほぼしうめつしてし  
まいます。そのようなことはあてはな  
ないと思われました。

白科小、木康介

先日は授業をしていただき、ありがとうございます。  
ごさ"い"ました。自分にとってとてもためになる  
お話しでした。原爆のおとされた、時おとさ  
れたあとの話は、衝撃的でした。ユニフォーム  
にがげ"が"り"たことや、ぬ"が"はが"れ  
てしまったこと、人とは思えない体になって  
しまったこと。なにもしていけない広島のと"が"  
大勢こ"されたことでも、けなしく感じまし  
た。原爆こ"は、お父さんといった時なにもいけず  
ぬ"が"はが"れた人形を"て「きれいすぎる」と  
いったということにもおど"きました。

当時ど"れた"け、ぬ"り"ことになってしま  
ったのが、目"う"かひ"ます。もう二度と、  
こんなことがあ"き"ないように、これ"ら  
も、広島と長崎の"が"き、忘れ"ら"ずに心"に  
き"み、私たちが次の世代にしっかりと伝えて  
い"きたい"です。

白桜 6-2 山城響子

ぼくは原火暴先生の話しを聞いてすごくこわかった  
たです。原火暴の話しは少し聞いていましたが、  
あそこまでくわしく聞いたことはありませんでした。  
だからすごく聞いていてこわいような感じ  
がしました。兵隊だった原火暴先生のお父さん  
の實際に話している映像を見ている時も、すご  
くこわい人だろうなと思いました。お人な  
泣きながら話しているので、そうとうひどいこと  
のでしょう。3つうの人は皮も、なんかはがれな  
いし、肉もでない。だから想像すると、た  
くこわい。それを兵隊だった人は、おんぶしてか  
い収めなければいけない。しかもいる所  
から人が出てくる。こわすぎてぼくだったら  
動くことさえもできなくなると思う。ただで  
さえ死体を見ることもしたくないと思っ  
ているのに、それを運ぶなんてとてもでき  
ないと思いました。だから原火暴は本当に  
こわいと思います。そして、兵隊だったお  
父さんもすごく大変でこわかったと思っ  
たに、よくがんばってできたなと思います。

武田隼



ぼくは戦争を経験したことか  
だから、どんな気持ちになるかは分  
らない。そもそもなんで戦争なんですか。  
いろいろな国々の人々を殺していった。何の  
意味があるのか。確かに土地や財産を手  
に入るかもしれないけど、人の命をうばうまで  
やる必要はないと思う。いろいろな人が悲し  
んだり苦しんだりしてしまうことぐらい分かって  
いると思うのになぜやるんだらうか。

はかど

原爆先生の話を聞いて

原爆先生の話を聞いて、原爆は絶対にや、てはいけな**い事だ**ということの理由が改めて分かりました。

今までも戦争や原爆がや、てはいけな**い事だ**ということは分か、ていましたたが、戦争を経験した人の息子という身近に戦争を経験した人がいる人の話を聞いて、それまではあまり実感  
がなかつた原爆の恐しさを実感しました。そして、池田義三さんと原爆先生が原爆資料館に行、て原爆を受けた女生の人形を見て、池田義三さんが「きれいすぎる」と言、ていたという話を聞いて、そういう風に思えるのは実際に戦争に行き、原爆を受けた人を自分の目で見た人だけだ、と思います。

死んだ人をおぶ、ている時に腐敗臭がすごくて投げ出したくても、最後までやり切、る事がすご、いと思いました。

やっぱり戦争を経験した人としてない人の差は大きい、と思いました。

6-1 山本 啓

# 原爆の話を書いて

私は原爆について話してくれた原爆先生はどんなことを言いたかったのか考えたら、原爆は絶対にや、てはいけなし、人々の幸せをうばい、たくさん尊い命が原爆によってこわされてしまったと言っていたのかと思いました。北田先生のお父さんが実際に体験したことを聞いたとき、もう聞きたくないような話であり、胸が傷む思いでもありました。徴兵令が出されて20才以上の男の人たちが皆戦いに挑むのに対し、私はなぜ人々を苦しめるのか、なぜしょうもない理由で争いを起こすのかで疑問に思いました。なぜなら、もしも政府が世界を敵に回すようなことをしなければ大切な命を守れたはずだからです。お父さんはとても争わかったと言っていました。人々を助けたかったのに助けられないし、助けようとしても皮ふがずれて転んでしまわうからです。私はお父さんがとても大人だと思えます。17才で入隊してたった九日間で色々な経験をして生きのびる人が。

また、家族思いであるとも思いました、  
自分が死んでしまうと家族が悲しんで  
しまうことが強く伝わったのかもし  
れません。また、家族に会えなくなり  
ます。それも恐れてしまうことです。  
池田先生はどのようなことを伝えたか  
ったのかは分かりません。でも目や感  
情がとても熱いことは少し分かる気が  
します。命がうばわれる原爆に対して  
の思いが。私は小学生ですが、小学  
生なのに死んでしまった子も多くい  
ます。このあつた、私は命をうばう  
ようなことは一生したくありません。  
そして、平和な日々を暮らせることを  
願いたいと思います。

高田紗也

私は学校の授業で戦いの事を少し勉強しただけだったので、「怖いなぁ」としか思ってなかったけど原爆先生の授業を受けてからは、戦争や原爆とは、すごくおそろしい事で、この世界には、あてはならぬ事だと思いました。

原爆で燃えてしまった人の話や、歩き方など、私たちがこれから聞かないような話をしてくださいました。

私は原爆のすごさについて知った後、「なぜアメリカの人たちは、こういう核兵器を作ったんだろう」と思いました。

「この世界に核兵器という物が無かったら、こういう事にはならぬのか」とも思いました。私は今日の授業を通して、戦争を経験した人たちは、本当にすごいなと思いました。

これからの世の中は争い事が絶対無い世の中が良いと思いました。

出宮 七海

私は、原爆先生の特別授業をうけさせてもらい、とても衝撃的でした。原子爆弾はすごく残酷でこわい兵器と知、たからです。本当は、「あんなこわい話、聞かなければよかった。」と思、ていました。しかし、色々考、えている内に「こわいからこ、そ、学ばなければいけないだ。」と私は思、いました。これは、原子爆、弓に限らず、他の事でも言、えます。知識があれば、それが向、か、てきた時に対応できるし、そのこわいものの残酷さを後世に伝、えら、れるからです。王見に、今回来てくれた池田貞徳さんは私達にその残酷さを伝、えてくれました。だから、私達は知識を増やしてそれを伝、えていかなければなりません。最近、アルカイダなどのテロ組織が原子爆、弾を持、っています。絶対に無いとは思、いますが、明日、あなたが殺、されるかもしれません。もう残酷な事を起、こさないため、私達は原子爆、弾の残酷さを後世に伝、えなければいけないので

私は原爆先生の言話を聞いて、あらためて、  
戦争のこわさ、おそろしさをわかりました。  
ケがをしている人をほこんだり、なくなった人を  
ほこぶのは、すごく勇気がひつようだと思いま  
した。重度のやけどと、きいただけでも、ゾクと  
しました。

じっさいに、戦場に出たりした人は、自分も、大変なのに、  
人をたすけたりなど、あたりまえに、みんなが、できる  
ことではないことをやったりして、すごいと思いま  
した。

住んでいる町に、いきなり、爆弾が  
おちてきたら、ふつう、こんらんして、何にもできない  
と思うのに、こんらんしながらも、人をたすけようと  
する、気持ちや、強さが、私は、すごいなと  
思いました。

私が戦場に行ったとしても、たぶん、何にも、  
できないんじゃないかなと、思いました。

ほんとうに、大変だったのに、戦争とたたかて、  
すごいと思いました。

だから、私は、これからも、戦争や、あらしのこない  
国になれたらいいなと、心から思いました。

横井佐子

原爆先生に言を聞いて自分は、原爆、戦争のおそろしさ、むさなとめ、よくわかった。自分は自由研究で東日本大震災のことを調べましたが、原爆で亡くなった方々の数の方がはるかに上で、いままで以上に少なくなりました。自分はいつも戦争はただ怖いと思っていただけ、何も知りませんでした。けど先生のお父さんの話を聞いて、こわいとかめ、とられないたなと思いました。

最後にみせてもらった映画で先物のお父さんは泣いていました。それは、原爆で苦しんでいた人を助けられなかったことを悲しく出したからだと思います。でも助けようと思っていた先生のお父さんは、勇敢な人だと思います。原爆で亡くなった人々を最初は苦しめたものの、しょうけんめいみつけたし、おたのびて、早いと思えない、逆に苦しくなってしまうものでも、おたのびるとか、おぼえておいた。たぶん先生のお父さんは、戦争のない平和な世界にしたかったんだと思います。

6) 岸川 泉



私はあの話を聞いてまず最初に「怖い」と思いました。でも話を聞いても聞いてもその時は「怖い」という感情しかでてきませんでした。

話しかが終わってだんだんまとまってきました。私はきのう話してもらったことが「身のまわりでもおきたら...」という事を考えてみました。

まず、私は女なので、たいてい軍隊に入ることはないですが、もしもそういう事があったらと想像してみました。おぼつうに仕事をしている事にいきなり

ばくだんが落ちたとします。自分はきせき動に生きていました。それで、原ばくドーム周辺を見に行けと言われます。でも私はそういう仕事なのでしなけれはなりません。そして、行ったら死んだ人、死にそうな人がたくさんいました。私はそこが、この私で、「きもち悪い」でもなく「かわいそう」でもなく「怖い」と思いました。

たすけようと思ったら、ひるかが「はか」れたり

すごい)におい(にたえたり)、それが「何日も  
何日も続き、それにたえたのがすごい)と  
思いました。私はここで、「怖い」より  
も「すごい」にかわりました。本当は自分  
も帰りたい、などと思っていたのに、やってい  
たことが「バ」から「すごい)と思えました。  
私は「何日もかたたらなれていた」という  
言葉にびっくりしました。私はぜったいに  
なれない)と思いました。  
なので「私はそういう人たらしほりをもて  
住まっています。

白石かなえ

原火暴は、いかなる時でも使用してはならない。そう思いました。原火暴は、人々を一瞬にして死に至らす兵器です。なんとか生き延びても、待つのは死です。

「戦争を終わらせる為に、原火暴は必要だった」。そういう外人がいると、朝聞いた時、僕はついその外人に聞いてみたくな、てしまいました。

「それなら、貴方は、戦争を終わらせる為に、死ぬますか？」こう言うと、たいかいの人は黙リ込みます。

原火暴がいかにも怖い物なのか、ただ聞くのでは、意味はありません。ちゃんと、考えなければいけないのです。

僕は、原火暴先生の言を聞いて、原火暴は、この世界にとって、不必要であり、人々の幸せを、人々の生活を、全てを消す、最悪の破壊兵である事を、改めて実感しました。

## 「原爆先生の話し聞いて」

私は、原爆先生の話しを聞いて  
すごい怖いと思いました。私は、「あだしのゲン」というアニメを見て原爆の事  
を知りました。原爆先生のお父さんが  
原爆を体験した事を知り、びっくり  
しました。

私は、話しを聞いていると泣きそうに  
なる所がありました。それは、原爆先生のお父さんが話しをしているビデオでした。  
そのビデオには、お父さんが実際に体験  
した事を話しているビデオで、お父さん  
は、つらい思いをした事を私たちに伝え  
て、泣いてしまった部分もあるけれど、それ  
でも、私たちに伝えてくれようとしてくれ  
ました。私は、本当にすごい人だと思っ  
ました。私たちは、体験した事は無い  
けど、話しを聞いたり、調べたりして  
いろいろな人たちに伝えていきたい  
と思いました。

森真梨恵

私が思ったこと

昨日、げんぼく先生からお話しを聞いて、とても変な気持ちになりました。げんぼくがおとこ沢山の人がたまって、ひふ、また水さかて「助けて」「いたい」などのことを聞いて私は、すごく悲しくなりました。理由は、沢山の人が多まるこげになつたり、ひふ、がた水落ちたり、まだ幼い子供たちが死んでいくのが悲しかったからです。でも私はこの戦争を終わらせた人に少し感謝しています。この戦争が終わらなかつたら、きっと今も戦争はつづいてると思います。今こうして私たちがふっうにくらしていることも、戦争があつてその戦争が終わつてくれたから今の生活があるんだらうなと思います。

6-1 岩浪 礼奈

私は原爆先生の話聞いて、戦争の  
恐しさを、改めて感じました。そして、兵士  
として戦争に立ち向かって行った人がす  
ごいと思いました。池田義三さんは、17  
才で兵士になって、原子爆弾が投下され  
たときに、被爆者の生々しい姿を見たとき  
聞きました。死臭などにもたえて、必死に  
人を助けようとした義三さんは、すごく  
かっこいいです。私が男でも、大人でも、  
きつとたえることは出来ないと思います。  
原子爆弾の投下はこわいけど、それ  
以上に原子爆弾を投下したアメリカが  
憎くかったです。原子爆弾が投下され  
なかつたら、大やけどをすることも、苦しむ  
こともなかったのに、と思いました。でも、  
今日永島さんの読み聞かせや、永島さん  
の体験談を聞いて、どんなにアメリカが  
憎くても、おたがいを認めあわなけれ  
ばならない、ということを知りました。原子  
爆弾が投下されたという現状を、いろ

いろな角度から見ても、分かることも、たくさんあるので、原子爆弾を投下したことは、戦争を終わらせるうえでやらなくてはいけなかったと考えるアメリカのこともよく考えてみる必要があると思いました。

戦争はこわいし、二度とやっほしくないし、人の命も大事にしたいと思いました。

6-1 押川千優

〈感想〉

戦争と原爆とてもこわいものだとあらためて思  
いました。池田さんのお父さんの義三さんは、  
とてもつらかったと思えば、非害に合った人も、  
こわくて悲しかったのではないかと思います。  
私はそれを体験したわけではないのに、  
とてもこわくておそろしいと、とても思いました。  
なので、僕さいに体験した人は、何倍もつらか  
ったと思います。原爆で、体中がやけて  
まっている人をたすけようとして、車に引き上げ  
ようと、手をさしのべても、やけどをしているので  
ひるが、はがれてしまい、車からおちてしまう  
と言っていたことがとても、悲しくてこわいと  
思いました。たすけて...と言っているのに、たすけら  
れないことが義三さんは、つらかったと思います。  
死体をはこんだりすることは今の私達には、できな  
いと思うので、私達は、すぐくわいそんがいたと思  
いました。戦争で死んでしまった人は、きっと、もっ  
と生きたかたと思います。

ささき貞子さんも、白血病で、12才で亡くなって



しまい、わずかな人生を、せいいっぱい生きてきたのだと思いました。私達も12才なので、この命がとても大切な物だとあらためて思いました。まだ生きたから人もいるのに、今、生きている私達も、その人達より、せいいっぱい生きられる命を自分のためだけにではなく、みんなを思いやって生きていかなければならないのではと、思います。

川井 彩加

原爆先生の話しを聞いたとき、私は、戦争とは悲しいことだなと改めて思いました。ただでさえ戦争という言葉聞いただけでも悲しいのに、その体験談を聞くと、もっと悲しい気持ちになります。しかし、それと同じに、知れてよかたという気持ちにもなりました。たくさんの人に知ってもらいたいと思いました。私が原爆に一番疑問を持ったのは、なぜアメリカはなにも罪のない人を殺し、なぜ政府をおそわなかつたのだろうというところです。もちろん、まちがった考え方の政府はいいとは思えません。だけど、国民に罪はないはずで、そんなよくない考えを持った人が増えないようにこのことをたくさんの人に伝えるべきだと私は思いました。

ぼくは原爆先生の特別授業を聞いて、戦争の恐ろしさをあらためて感じました。原爆が落とされた広島と長崎は、原爆を受ける前はにぎやかな町でした。なのに、原爆が落とされた直後、町は熱線でも焼きつくされ、火暴い土地、何斤の人間などもかたもなく、きえさり、火暴い土地からそう近くない人間も生きるのがたどなぐらいつの姿になり、息絶える人も少なくありませんでした。そんな中、現場にいた池田義三さんはまだ高校生の年代である17才で現場に行き、そのような人間を何人も何も見て助けを求める人の手を持つと、手の皮がはかれ、無残にも死体と酷すぎる人間をまのあたりにするなど、すでに息絶えた人の死臭に何日もたえたりすることができた。そうしなければ、"いけない"状態だったとしてもたえ続けた池田義三さんは、言葉にできないほど"すごい"人だ、たと思います。ぼくは、このことを忘れず、そして今いまられていることを、感謝したいです。

兼修 哲文

感

想

ほくは、今まで「原爆」というもののこわさがよく分かっていなかった。はたしのゲンという原爆についてのことがよくわかっていてまん画を読んだことがある。しかし、まん画なので、実際にあつたということがあまり理解できず、原爆の被害がわからなかった。だが、今回、原爆先生の話を聞いて原爆のことがよく分かった。爆心地にいる人を「しゃんごん」にして、爆心地にいない人も人が5人のよなかたちとした重化物に変える力をもつからうじて生きることができた人を放射線線によって死なせてしまうのが原爆。この話を聞いたとき、とてもびっくりした。このよなことが実際に起きたという話を「はたしのゲン」を読んで感じるということができた。今回、原爆を経験した人の親族の方の話を聞いてよかった。

森本晋太郎



ぼくは、原爆先生の話を聞いて、改めて戦争や原子爆弾は怖いものだ”と感じました。なぜなら、原子爆弾の中にあるウランというものが、たった1kgだけ核分裂をしただけで9万人以上の人をあの世へおくと考えると、とてもおそろしいからです。

しかし、もともとウランは60kgも原子爆弾の中につまっていた。60kg、全てが核分裂をおこしていたとすると日本はどうなっていたのでしょうか。

このようなことから、原子爆弾の怖さと実際に戦争にあった人のすごさを学ぶことができましたと思います。

もしもぼくが17さいで軍隊に入れと言われたら、心の中では行きたくない、でも実際は行ってしまいます。心の中では死にたくない、実際は国のために戦わなければならないと思うと思います。

だから、ぼくは絶対に戦争はしたくないし、今の平和な時代に生まれてきてよかったと思っています。

6-1 浜田 周

池田先生へ

池田先生は、昨日お父さんの  
体馬灸を話してくれました。ぼくは話を聞  
いている中で、戦争とは人間に必要な  
ものだと改めて知りました。おたがい人間  
どうしなのに、川が死体で埋め尽くされる  
ほど"さんこく"なばくだんをなせ"落としたのが、  
戦争を終らせるためかもしれませんが、それにし  
ても"さんこく"な方法だと思いました。人間が人間の  
姿ではなくなってしまうほどのばくだんを作った  
人にぼくは、聞いてみたいのです。ただ、日本に  
大きないきょうを写えたいた"けなのなら  
考える事がくる、てると思いました。ぼくが"こ  
ういった考を持つのは池田先生のおかげです。  
池田先生、授業を開いてくれてありが"とう  
ございました。

6-1平林 良尉より

～ 原爆の話聞いて～

私は原爆の話聞いてゾッとしました。皮ふが垂れて、真赤な体で「助けて…兵隊さん…」と言っている被爆者を想像するといつてもたてもいらぬ感じになります。私は戦争は怖いなと聞きながら思っていました。私がもし昔の広島の人で原子爆弾を目の前で見たら助からないと思います。

原爆の事を話してくれた人の父親さんの話で一番印象に残った話が二つあります。一つはトラジックの話です。兵隊の手をにぎって助けてもらおとした被爆者が手の皮ふがとれて苦痛でひめい出し、皮ふがとれた人が兵隊の手をさわたり激痛でさわれない被爆者の話をしているとき胸が苦しくなりました。その事をイメージするだけで「地獄」だなと思いました。

二つ目は父親さんの五分間映ぞうの言葉です。話している時に涙を流して「被爆者は男女の区別もつかず人間なのに人間ではな…」といた時に涙がこぼれてきょうになりました。目の前で見たとを思い出して父親さんは涙を出してはたんでしよう。私達は戦争を体験したことがないのでこの原爆の話聞いて改めて戦争はやってはいけないなと思いました

6-1 野村優美



# 原爆先生の話聞いて

原爆先生の話を通じて聞いて、私は今までにあじわったことのない「恐怖」を感じました。話を聞いただけでこんなにも「こわい」という気持ちになるということは、実際に原爆を目のあたりにした人たちは、言葉では表現できないくらいの恐怖だったにちがいありません。

今回、原爆の話をしてくれた原爆先生のお父さんが実際に、17才で兵隊になり、戦争後も82才まで生き続けたことを知って、兵隊になって被害にあっている人を助けたくても助けられず、何万人もの死体を運び、心も体も私たちがなんかと比べものにならないくらい苦しめたはずなのに、80才を過ぎても生きのびたことは、本当にすばらしいことだと思いました。

戦争経験者は、私達に戦争、か兵器、原爆のこわさ、ひさんさなどを教えてくれています。ですが、戦争経験者もいつかは、年を

とり、たかたか、最後、

とり、亡くなって、最終的にはもう、1人も戦争を  
実際に経験した人達はいなくなっているでしょ  
う。戦争の本当のこわさを知っている人達が、  
いなくなると、〈平和主義〉という憲法がなくな  
ってしまうかもしれないし、何年後かに戦争が  
起こるかもしれません。なので「戦争はおそろ  
しい。やてはいけない」ということを経験した  
人達が現代の人達に伝えていることは、と  
ても良いことだと思ったり、原爆先生のように  
経験者の話を聞いて、若い人達に伝えてい  
ることもすばらしいと思いました。

私は、これから、今回の話を忘れず、命を大  
切にして、生きていきたいです。

6-1 森 深悠

原爆はただ死に暴ら撃たしにか  
思っていた。しかし原爆先生の話を  
聞いて、思っていたのはるかにかつ  
ということがわかった。また戦争にいた  
人の心の強さがわかった。

ぼくは初めのころは、どうしてこんな  
話をきくのだろうと思っていた。どうし  
てこんなにおそろしい話を聞くの  
だろうと思っていた。

しかしほかの国に原爆のおそろさを  
知らない人がいると考えると、この現実  
を知っておかないで知らない人にお  
しえをいといけぬ。だからこの  
話は、ずっとおぼえてはいけぬ。  
日本人のように生きておいてよかった。

植草俊太郎

もう二度と争いなんてしてはいけないと思った。  
今回、話を聞かせていただいて、そのひがいが想像以上のものだった。皮フがはがれて、肉がさけて…とても悲しい気持ちになった。何も悪いことをしていない人たちが、なぜこんな苦しみを受けなければいけないのか。そう考えました。このようなことを二度と起こさないために、後の世代には、真実を伝えていかなければいけない。家で母に聞いたのだが、原爆ドームに展示されているパネルは、今はもっとやさしいものに変えられたという。池田さんのお父さんも、博物館で「きれいすぎる」とおっしゃっていたが、当時のありのままを伝えていかななくては、また同じことが起きてしまう。ありのままを伝えていく責任を感じた。当時のことをぼくたちはまだ、少ししか知らない。でもこのような機会でも、真実を学べたことはとてもいい経験になった。学んだことから考えると、今はなんてしあわせな世界なんだろうと思った。本を読んでいた

たいて、歩ける、食べられる、生きられる、このこと  
だけでしあわせだとおっしゃっていたが、まさにその通り  
だなと思った。二日一日を大セカにしていかなく  
てはだめだなと思った。このようなことすべ  
てから共通して思ったのが、二度と争いをし  
てはいけないということ。本当に強く思った。  
昔の人々からの意志をうけついで、伝えて  
いかなくては。

中山鳥 駿介

僕は広島と長崎の原爆資料館に行つたことがあり、原爆のことかゝ分かつてい  
た気がしてました。しかし、池田先生のお父さんのビデオを見て、僕が原爆資料館で  
見たものと実際にその場で見た人の差は天と地ぐらゐちがうことが分かりました。僕が原  
爆資料館に行つたとき、まるで背中をなぐられさのあたりぐらゐまで「ゾゾゾ」という感じがして今  
も覚えています。でも、池田先生のお父さんの経歴を聞いたことは、それよりさらに恐ろしいことと考へて  
も今の僕には想像も出来ません。池田先生の授業の翌日に読書週間の読書開かせでクラスメ  
ットのお母さんが原爆の本を読んでくれました。その時、僕は池田先生の話を思い出しながら聞い  
ました。そして読書開かせが終了した後、アメリカに留学していた時の話をしてくれました。  
その時、軍人の先生が「原爆は戦争を終わらせるために必要だ」と言つたそうです。そこで反  
論が出来なかった事かして悔しかつたそうです。子供の頃においぢさん達の話を聞いていれば  
よかつたとも言っていました。僕も「原爆は戦争を終わらせるために必要だ」というのはちがうと思ひ、  
戦争を終わらせるためとはいへ原爆という手段を使つたはどうかと思ひ、今回の池田先生の授業  
で原爆は産と使つてはいけなと実感しました。

増本 龍

# 原爆の怖さ

ぼくは原爆先生の話を聞いて  
戦争は絶対におこしてほしくない  
なと思いました。その爆たんだけで  
広島市ぜんたいをはがしてしまし  
広島の人々を一瞬にしてけしてしま  
う話を聞いてびっくりしました。そ  
して生きている体の皮がたれさか  
ほうからなんでもそんなことをする人だ  
と思いました。戦争はすこく怖いな  
と思いました。なぜなにも悪いことをし  
てない人々をその爆たんだけで死し  
まうのが分かりませんでした。そして  
長崎の原爆でも雲がいつはいつか  
長崎全体が見えなければ長崎の人  
々の一部たつとなくなっていな  
らうのだ  
ほんとうになんにも悪いことを  
人々を殺してしまふのがすこ  
しいと思いました。でも原爆先生の話を  
聞いて絶対原爆のことは生かすべ  
ないと思います。

忍足竜哉